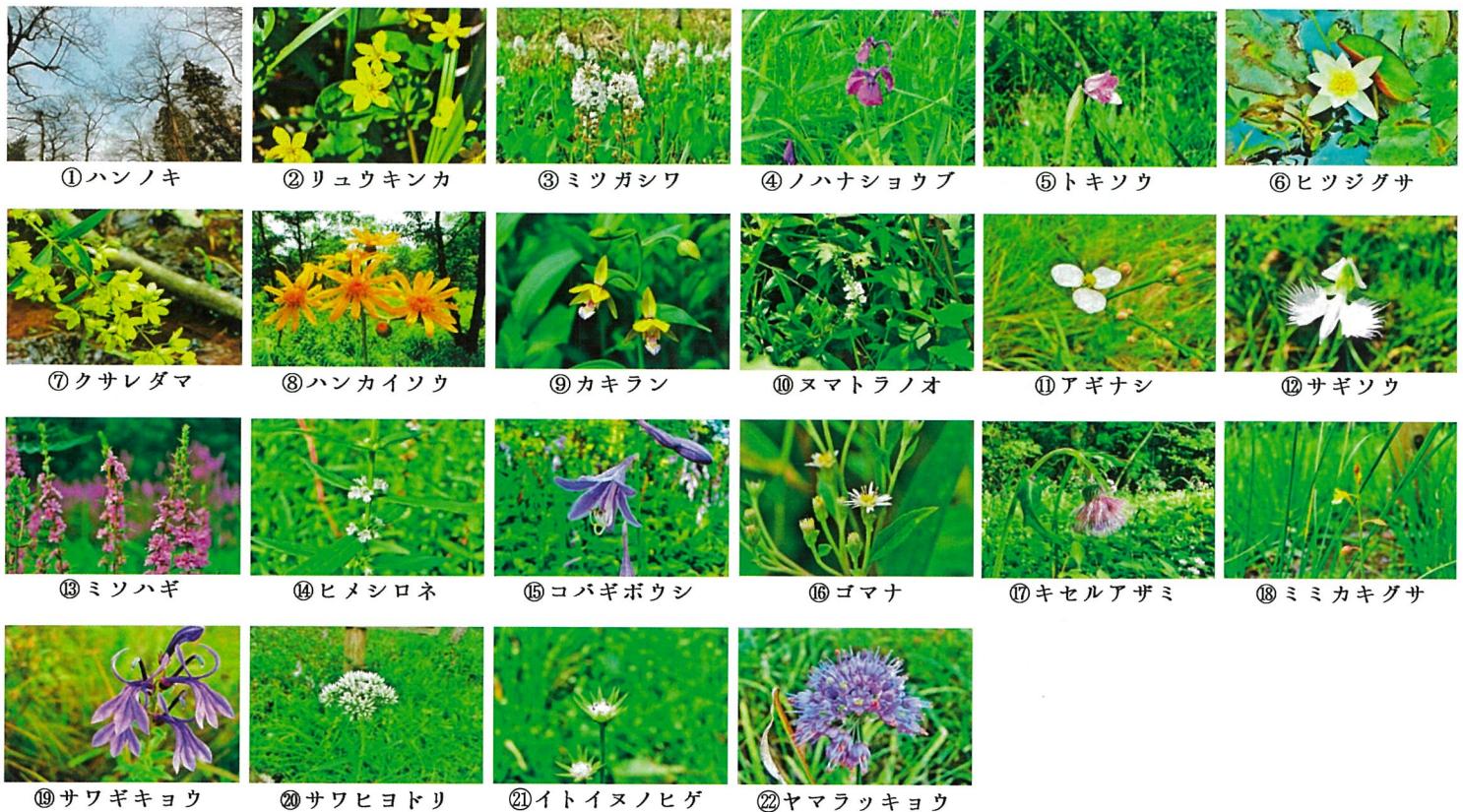


赤名湿地性植物群落



県下最大のハンノキ林の中、木道を歩く足元には、春はミツガシワ、
秋にはサワギキョウなど四季折々の花が鮮やかに咲く。
すぐれた自然の存する地域を守る「島根県自然環境保全地域」に指定されている。

- 専門資格を持ったガイドが飯南町の自然をご案内♪ [【エビオネイチャーガイドオフィス】](#)
- 心も身体もリフレッシュ♪ [【飯南町森林セラピー®】](#)
- 飯南町観光情報♡ [【さとやまにあ】](#)

㊟動植物の採取は禁止されています！自然は大切に。

番号	種名	花期	写真	特徴
①	ハンノキ	3月		湿地に分布する落葉高木。赤い花が葉の展開に先立って咲きますが目立ちません。古名は「はりのき」で開墾を意味する「壘(はる)」からています。ハンノキがある所はよい耕地になるといいます。
②	リュウキンカ (立金花)	4月~5月		北国の湿地に生えるもので、この地方では極めて珍しく、島根県でもここ赤名湿地にだけ群生するたいへん貴重な植物。名は花茎が立ち、花は黄金色に輝いています。
③	ミツガシワ	4月~5月		1万年前までの氷河期に栄えた植物です。西日本の所々には残存植物として自生していて、この地に生息すること自体が学術的に貴重であるといわれています。したがってミツガシワが群生する赤名湿地は島根県の環境保全地域に指定されています。
④	ノハナショウブ	6月		花菖蒲の原種で、これをもとに数多くの花菖蒲の品種が作られました。花菖蒲(園芸用)の花の色は多様ですが、ノハナショウブは赤紫の一色です。
⑤	トキソウ	6月		日当たりの良い湿地にはえる多年草です。葉は一枚、花も一個で頂生(花などが茎や枝の先端につくこと)し紅紫色で朱鷺(トキ)色をしていることが名の由来です。
⑥	ヒツジグサ	6月~8月		日本に自生するスイレンはこのヒツジグサ1種のみです。昼に(10時頃)開花し夜には閉じます。ヒツジグサの名は未(ひつじ)の刻(午後2時)頃に開いているからです。
⑦	クサレダマ	6月~8月		湿地にはえる多年草です。名は腐れ玉ではなく、「草レダマ」です。ヨーロッパにはえるレダマという樹の花に似ているためです。
⑧	ハンカイソウ	6月~8月		茎は高さ1m前後になり、基部の太さは1cm近くある大型の多年草です。葉も大きく掌状(てのひらじょう)に深く切れ込んでいます。名は中国・漢時代の武将「樊噲(はんかい)」からています。
⑨	カキラン	7月		名は花の色が柿の実の色に似ていることから名付けられています。花の色は黄褐色(だいだい色)で、花の数は10個位付いています。下側の花弁(唇弁)の内面に紅紫色斑があります。
⑩	ヌマトラノオ	7月~8月		和名の由来は通常の草原に生育するオカトラノオと比較したもの。初夏に花穂を形成し、白い花を咲かせますが、オカトラノオのように頭を垂れません。
⑪	アギナシ	7月~8月		湿地や水田にはえる多年草です。よく似たものにオモダカがあり区別が難しいです。一風変わった和名の由来は、発芽直後の子葉が頂裂片と側裂片が分裂せず、顎(アギ:古語)が無いところから来ているそうです。
⑫	サギソウ	8月		花の形が飛び立つ鸞(サギ)に似ていることが名の由来です。野外に自生する所は極めてまれとなり、県内でも赤名湿地のほかは限られます。
⑬	ミソハギ	8月		ミソハギとちょっと見ただけでは区別がむつかしいエゾミソハギもはえています。エゾミソハギには全体に白い毛があります。茎はまっすぐに立ち、株元は少し木質化します。そして細い地下茎を伸ばして群生します。葉はふつう対になってつき、細長い卵形で小さく、濃い緑色です。
⑭	ヒメシロネ	8月~9月		湿地にはえる多年草です。シロネの仲間で、シロネの名は白根で太い真っ白い地下茎があるためです。他に近縁種のエゾシロネも咲きます。
⑮	コバギボウシ	8月~9月		この地域のギボウシの仲間はこのコバギボウシとオオバギボウシの2種類で、花は紫色で内側に濃い紫の線が目立ちます。名は小葉擬宝珠で、ギボウシの仲間では葉の大きさは中ほどですが、オオバギボウシと比べての名です。
⑯	ゴマナ	8月~9月		秋の野菊のなかでは、ゴマナは頭花が小さくたくさん付きます。名は葉がゴマの葉に似ている所からです。直立した茎の先端が多数分枝し、たくさんの白花をつけます。花は、舌状花は白、頭頂花は黄色から構成されます。葉は長楕円形をしており、両面ともざらざらしています。
⑰	キセルアザミ	8月~11月		湿地特有のアザミの一種です。ハンノキ林下に群生しています。ノアザミに比べて葉の感触が柔らかくまた、花は必ず垂れて咲きます。その姿が煙管(きせる)に似ていることが名の由来です。
⑱	ミミカキグサ	8月~10月		湿地は食虫植物の宝庫で、ミミカキグサも糸状の茎を這わせて、虫を捕る小さな袋をつけている食虫植物です。花茎につく花の形が耳かきに似ていることが名の由来です。
⑲	サワギキョウ	8月~10月		濃紫色の美しい花が秋の湿地を彩ります。花冠(かかん:花弁の総称。萼(がく)の内側にあり、萼と共に花蕊(かすい)を保護する)が、上は2枚に深裂し、下は3枚に浅裂して前に垂れる珍しい形です。
⑳	サワヒヨドリ	8月~10月		湿地にはえる多年草です。葉は葉柄(ようへい:葉の一部で、茎・枝につながる柄(え)のような所)がなく、ときに3深裂し、3行脈(葉に3本の長い脈)が目立ちます。
㉑	イトイヌノヒゲ	9月		細長い茎を2本の指でつまんで、下から上へとしごくと、先端の花がくるくると回転します。これは茎が、らせん状にねじれた構造になっているためです。そのため細い茎でも丈夫に保たれています。ホシクサ科の由来は、頭花の形が☆を思わせるところによる。
㉒	ヤマラツキヨウ	9月~10月		秋にピンク色の花を咲かせる球根植物です。ラツキヨウと同じ仲間で、同じように球根は食べられるそうです。ヤマラツキヨウは秋の花の終わりを告げる花の一つ。